

平成30年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について

参考資料

- ・ 地域公共交通確保維持改善事業実施要領（抜粋）…………… P 1～2
- ・ 北見市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要
…………… P 3～7
- ・ 夕陽ヶ丘線の運行実績…………… P 8
- ・ 川東・若松地域コミュニティバスの運行実績…………… P 9

地域公共交通確保維持改善事業実施要領（抜粋）

この実施要領は、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（平成23年3月30日国総計第97号、国鉄財第368号、国鉄業第102号、国自旅第240号、国海内第149号、国空環第103号。以下「交付要綱」という。）のほか、地域公共交通確保維持改善事業費補助金の交付等地域公共交通確保維持改善事業の実施に当たって必要な事項を定める。

1. ～5.（略）

6. 事業評価について

（1）事業評価の実施

①自己評価（一次評価）

地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、協議会自らによる事業の実施状況の確認、評価（以下「自己評価」という。）を行い、当該自己評価の結果を、地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通調査等事業にあつては、補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに、地域公共交通バリア解消促進等事業にあつては、補助金の交付を受けた会計年度の翌年度の1月末までにそれぞれ協議会から、地方運輸局、神戸運輸監理部、地方航空局又は沖縄総合事務局（以下「地方運輸局等」という。）に報告するとともに、公表することとする。

②二次評価

ア. 実施対象

バリアフリー化設備等整備事業及び鉄道軌道安全設備等整備事業を除く各事業については、自己評価（一次評価）等を基に二次評価を行うこととする。

イ. 実施方法

二次評価を実施する際には、当該評価の客観性・妥当性を担保するため、地方運輸局等に各担当部長等及び学識経験者等の有識者からなる第三者評価委員会を設置することとし、当該委員会においては、地方運輸局等が作成した二次評価案等について審議する。地方運輸局等においては、その結果を踏まえて評価を実施することとする。

地方運輸局等は、協議会に対して当該二次評価結果を通知するとともに、必要に応じて、事業計画の見直し等を求め、協議会では、二次評価の結果を踏まえ、必要に応じて確保維持改善計画、後続事業又は地域の取組等に反映させる。

二次評価の結果を含む事業評価の結果について、地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通調査等事業にあつては補助金の交付を受けようとする会計年度の2月末までに、地域公共交通バリア解消促進等事業（利用環境改善促進等事業）にあつては補助金の交付を受けた会計年度の翌年度の2月末までに、それぞれ地方運輸局等から国土交通省総合政策局へ提出することとする。

ウ. 複数年度評価（隔年評価）

地域公共交通確保維持事業のうち、以下の事由に該当する系統、航路又は航空路（以下「系

統等」という。)に係るもの以外のものにあつては、二次評価を翌年度に一括して行うことができるものとする。この場合において、複数の系統等を包括的かつ一体的に評価しているときは、当該評価の単位ごとに当該事由への該当の有無を判断することとする。

【実施を必須とする系統等】

- ・前年度に二次評価を行っていないもの
- ・事業初年度のもの（地域公共交通調査事業の結果を受けて確保維持改善計画を策定し、地域公共交通確保維持事業に移行したものを含む。）
- ・一次評価の結果が芳しくないもの

【実施を地方運輸局等の任意選択とする系統等】

- ・協議会において二次評価の実施を希望するもの
- ・その他地方運輸局等において二次評価の実施が必要であると認めるもの

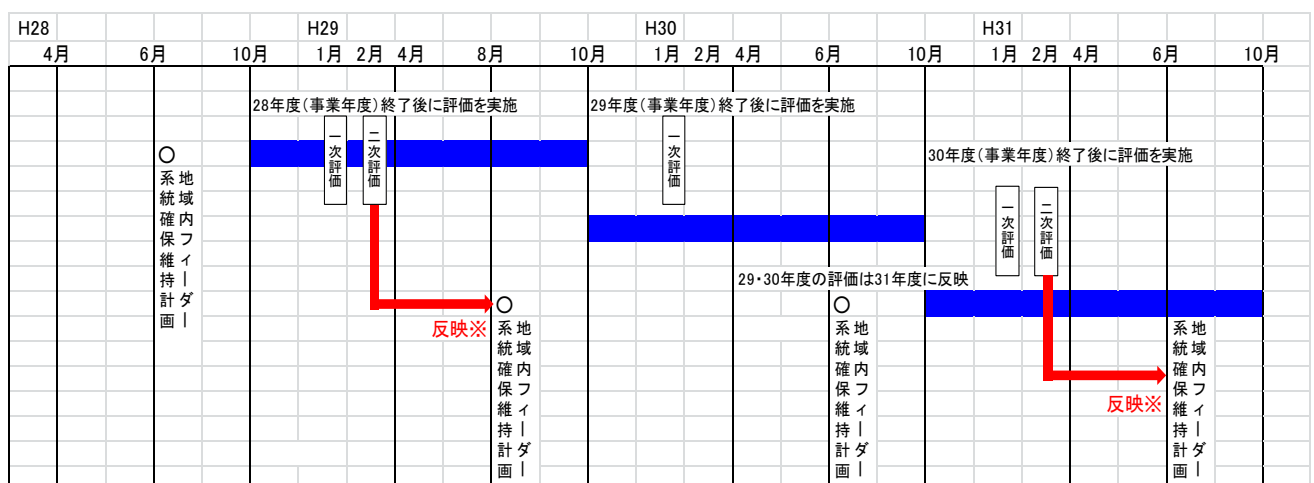
(2) (略)

(3) その他

上記によることができない特段の事情がある場合は、国及び協議会において必要な調整を行い、適切に対応することとする。

附則 (略)

(手順)



北見市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

北見市は北海道の東部に位置し、人口は117,806人(平成30年12月末現在)でオホーツク圏最大の都市であり、面積は1,427.41km²、北海道では第1位、全国では第4位の広さである。地域の公共交通は鉄道(JR)、路線バス、タクシーであるが、特に市民の移動手段となる路線バスは、近年、自家用車の普及、少子高齢化、人口減少等の社会情勢の変化に伴い利用者は年々減少傾向にある。しかしながら、障がい者や高齢者等いわゆる交通弱者や自家用車等の移動手段を持たない住民にとって、公共交通は、日常生活を送る上で重要な役割を担っており、障がい者の社会参加や今後の高齢化社会の到来等への対応を考えると、その必要性はより一層高まってくることが予測される。このことから、持続可能な公共交通の体制を構築することを目標に掲げ、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせることで、生活交通ネットワークの構築を進めている。

生活交通確保維持改善計画の目標

- 夕陽ヶ丘線(小泉8号ー西8号線ー小泉8号)
平成28年度の1日の乗車人数374人の2%増加をめざす。
目標 1日の乗車人数 381人
- 川東・若松地域コミュニティバス線
平成28年度の1日の乗車人数38人の5%増加をめざす。
目標 1日の乗車人数 39人

平成30年度事業概要

- 夕陽ヶ丘線(循環線:小泉8号ー西8号線ー小泉8号)
小泉8号を起点・終点とする循環線である。運行経路には、大型商業施設、医療施設、大学、高校等が含まれており、通称、買い物バスとして運行している。
- 川東・若松地域コミュニティバス線
北見バスターミナルを起点・終点とする路線バス区間とデマンドバス区間による運行を行なっている。若松大橋から川東住宅街を廻り、北見老人ホームまでを路線バス区間とし、北見老人ホームから川東郊外及び若松地域を予約制のデマンドバス区間として運行している。

地域公共交通の現況

- ・JR石北本線(北見駅外9駅)
- ・民間路線バス(24路線)
- ・市営バス(2路線)
- ・スクールバス(13路線)
- ・都市間バス(3路線)

協議会開催状況

- 平成30年1月22日 平成29年度第3回会議を開催
 - ・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(協議)
 - ・瑞穂線スクールバスの一般混乗について(協議)
 - ・平成29年度公共交通利用促進について(報告)
- 平成30年3月12日 平成29年度第4回会議を開催(書面協議)
 - ・ノンステップバス導入の補助事業に係る生活交通改善事業計画(バリアフリー化設備等整備事業)の策定
- 平成30年5月30日 平成30年度第1回会議を開催
 - ・瑞穂地域スクールバスへの一般混乗について(報告)
 - ・ノンステップバス導入について(報告)
 - ・平成31年度地域公共交通確保維持改善事業(協議)
 - ・平成30年度公共交通利用促進について(協議)

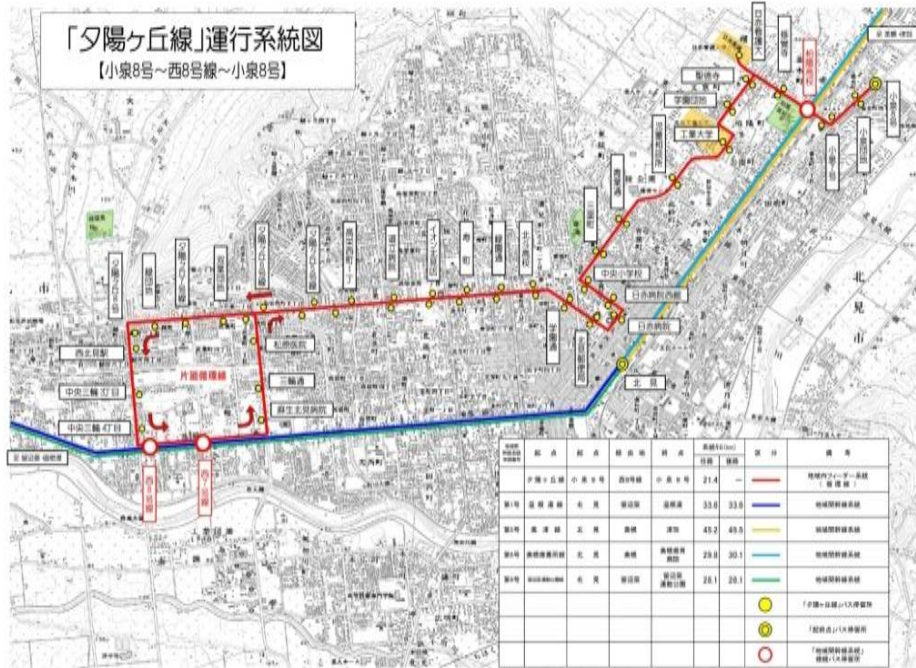
平成30年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

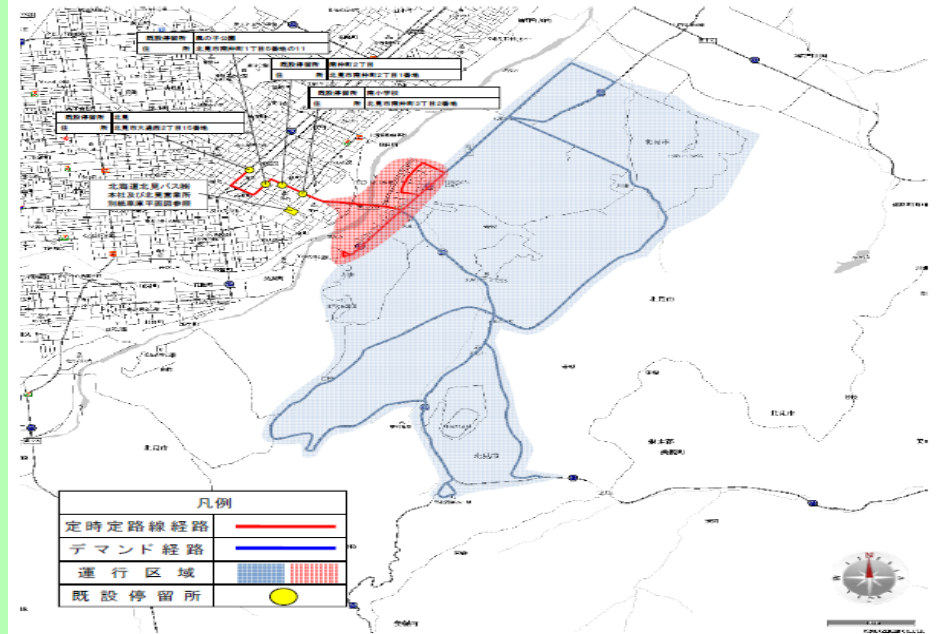
【夕陽ヶ丘線、川東・若松地域コミュニティバス線】

- ・「端野しらかば大学」にて高齢者の生涯学習の一環として公共交通に関する授業を行い、公共交通の利用を促した。
- ・北見市の身近な交通の情報を掲載した「ニュースレター」を発行し、全戸に配布した。
- ・「たんの太陽まつり」にて子ども向けの利用促進策を実施した。
- ・東相内小学校と連携し、社会科の施設見学の授業とあわせてバスの乗り方教室を実施した。

2) 運行系統



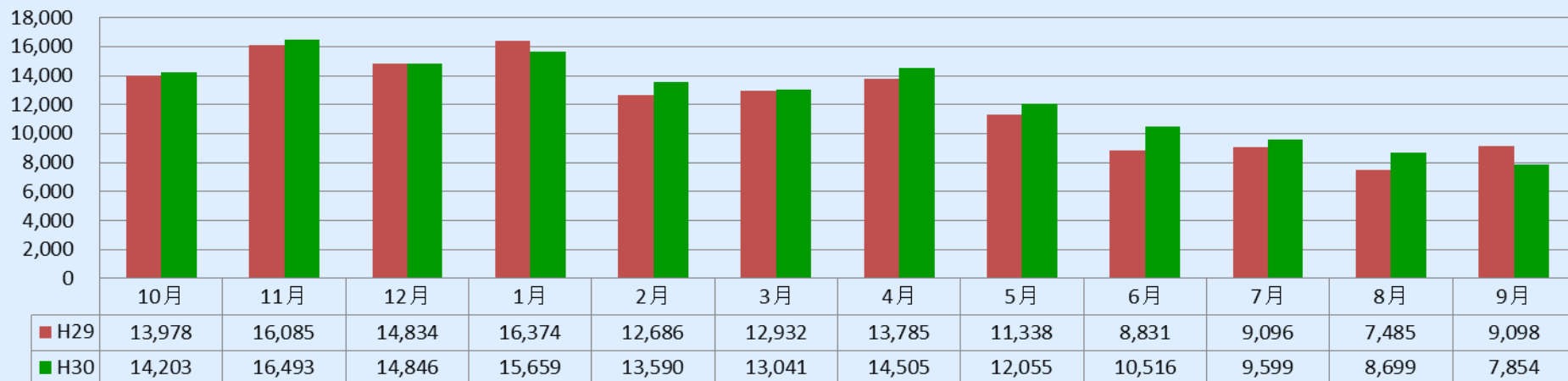
川東・若松地域コミュニティバス線運行経路図



3) 利用実績

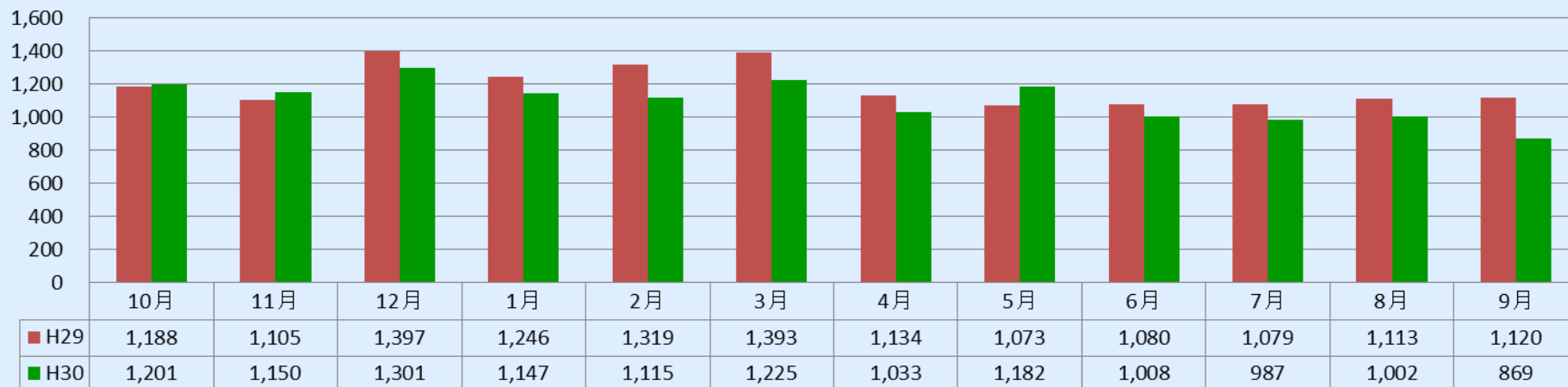
平成30年度夕陽ヶ丘線バス利用者数月別実績(前年度との比較)

単位:人



平成30年度川東・若松地区バス利用者数月別実績(前年度との比較)

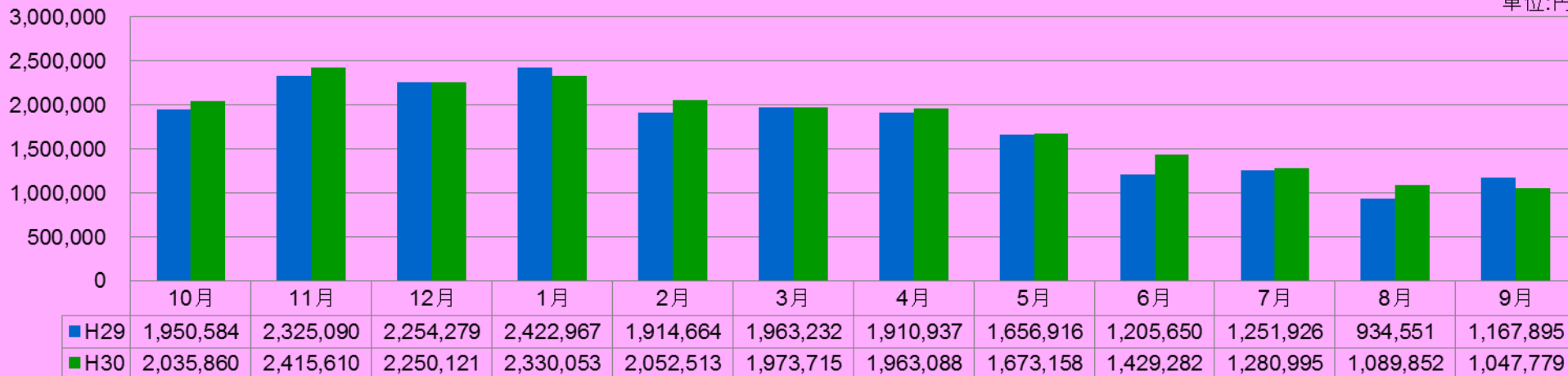
単位:人



4) 収入実績

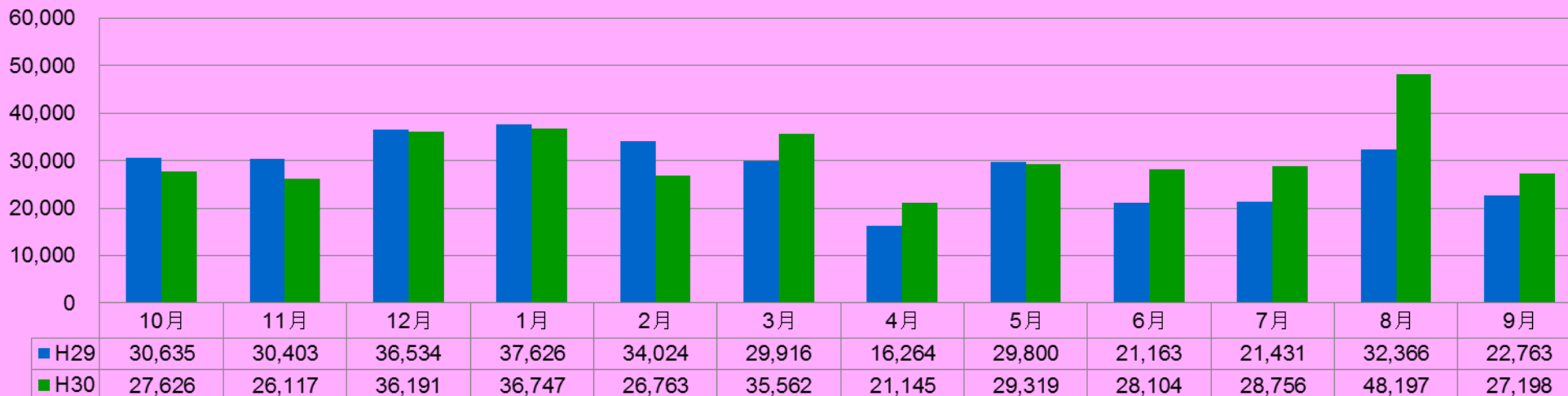
平成30年度夕陽ヶ丘線バス収入月別実績(前年度との比較)

単位:円



平成30年度川東・若松地区バス収入月別実績(前年度との比較)

単位:円



5) 事業実施の適切性

●夕陽ヶ丘線

事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施されている。

●川東・若松地域コミュニティバス線

H30.9に発生した胆振東部地震の影響により運行できない期間があったが、事業はおおむね適切に実施されている

6) 目標・効果達成状況

●夕陽ヶ丘線

利用目標381人/日に対し、実績は417人/日と目標に達している。

H30.9に発生した胆振東部地震での停電や悪天候等の影響もあったが、高齢者を含めた幅広い年齢層の利用者が増加しており、日常生活での利用が拡大していると考ええる。

●川東・若松地域コミュニティバス線

利用目標39人/日に対し、実績は36人/日と目標に達することができなかった。

要因としては、H30.9に発生した胆振東部地震での停電や悪天候等の影響により、高齢者を含めた利用者全体が外出を控える傾向にあったと考ええる。

7) 事業の今後の改善点

●夕陽ヶ丘線

沿線住民への啓発活動等による利用促進に向けた取り組みだけでなく、全市的なイベント等を活用し市全体の利用促進を実施し、潜在需要の掘り起こしを行い効果向上に努める。

●川東・若松地域コミュニティバス線

今後も利用実態を把握し、川東・若松地域での乗り方教室を行う等、地域の実態に合わせたきめ細かなサービス向上に努める。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄

夕陽ヶ丘線の運行実績

○平成29年度

月別	輸送人員	運行回数	1便当たり
10月	13,978	14 便 × 31 日 = 434 回	32.2 人
11月	16,085	14 便 × 30 日 = 420 回	38.3 人
12月	14,834	14 便 × 31 日 = 434 回	34.2 人
1月	16,374	14 便 × 30 日 = 420 回	39.0 人
2月	12,686	14 便 × 28 日 = 392 回	32.4 人
3月	12,932	14 便 × 31 日 = 434 回	29.8 人
4月	13,785	14 便 × 30 日 = 420 回	32.8 人
5月	11,338	14 便 × 31 日 = 434 回	26.1 人
6月	8,831	14 便 × 30 日 = 420 回	21.0 人
7月	9,096	14 便 × 31 日 = 434 回	21.0 人
8月	7,485	14 便 × 31 日 = 434 回	17.2 人
9月	9,098	14 便 × 30 日 = 420 回	21.7 人
計	146,522	14 便 × 364 日 = 5096 回	28.8 人

三輪→小泉間の増発分が追加されている

※平成29年度の目標 1日の乗車人数 380人

※平成29年度実績 日平均 輸送人員 $146,522 \div 364 = 403$ 人

○平成30年度

月別	輸送人員	運行回数	1便当たり
10月	14,203	14 便 × 31 日 = 434 回	32.7 人
11月	16,493	14 便 × 30 日 = 420 回	39.3 人
12月	14,846	14 便 × 31 日 = 434 回	34.2 人
1月	15,659	14 便 × 30 日 = 420 回	37.3 人
2月	13,590	14 便 × 28 日 = 392 回	34.7 人
3月	13,041	14 便 × 31 日 = 434 回	30.0 人
4月	14,505	14 便 × 30 日 = 420 回	34.5 人
5月	12,055	14 便 × 31 日 = 434 回	27.8 人
6月	10,516	14 便 × 30 日 = 420 回	25.0 人
7月	9,599	14 便 × 31 日 = 434 回	22.1 人
8月	8,699	14 便 × 31 日 = 434 回	20.0 人
9月	7,854	14 便 × 28 日 = 392 回	20.0 人
計	151,060	14 便 × 362 日 = 5068 回	29.8 人

9/6、7停電により2日間全休

※平成30年度の目標 1日の乗車人数 381人

※平成30年度実績 日平均 輸送人員 $151,060 \div 362 = 417$ 人

川東・若松地区コミュニティバスの運行実績

○平成29年度

月別	輸送人員	運行便数			1便当たり
		平日	9回 × 20日 = 180回		
10月	1,188	平日	9回 × 20日 = 180回		4.4人
		土日祝	8回 × 11日 = 88回		
11月	1,105	平日	9回 × 20日 = 180回		4.3人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
12月	1,397	平日	9回 × 21日 = 189回		5.2人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
平成29年1月	1,246	平日	9回 × 20日 = 180回		4.8人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
2月	1,319	平日	9回 × 20日 = 180回		5.4人
		土日祝	8回 × 8日 = 64回		
3月	1,393	平日	9回 × 22日 = 198回		5.2人
		土日祝	8回 × 9日 = 72回		
4月	1,134	平日	9回 × 20日 = 180回		4.4人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
5月	1,073	平日	9回 × 20日 = 180回		4.0人
		土日祝	8回 × 11日 = 88回		
6月	1,080	平日	9回 × 22日 = 198回		4.1人
		土日祝	8回 × 8日 = 64回		
7月	1,079	平日	9回 × 20日 = 180回		4.0人
		土日祝	8回 × 11日 = 88回		
8月	1,113	平日	9回 × 22日 = 198回		4.1人
		土日祝	8回 × 9日 = 72回		
9月	1,120	平日	9回 × 20日 = 180回		4.3人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
計	14,247		回 × 364日 = 3,159回		4.5人

※平成29年度の目標 1日の乗車人数 38人

※平成29年度実績 日平均 輸送人員 14,247 ÷ 364 = 39人

○平成30年度

月別	輸送人員	運行便数			1便当たり
		平日	9回 × 21日 = 189回		
10月	1,201	平日	9回 × 21日 = 189回		4.5人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
11月	1,150	平日	9回 × 20日 = 180回		4.4人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
12月	1,301	平日	9回 × 21日 = 189回		4.8人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
平成30年1月	1,147	平日	9回 × 21日 = 189回		4.4人
		土日祝	8回 × 9日 = 72回		
2月	1,115	平日	9回 × 19日 = 171回		4.6人
		土日祝	8回 × 9日 = 72回		
3月	1,225	平日	9回 × 21日 = 189回		4.6人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
4月	1,033	平日	9回 × 20日 = 180回		4.0人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
5月	1,182	平日	9回 × 21日 = 189回		4.4人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
6月	1,008	平日	9回 × 21日 = 189回		3.9人
		土日祝	8回 × 9日 = 72回		
7月	987	平日	9回 × 21日 = 189回		3.7人
		土日祝	8回 × 10日 = 80回		
8月	1,002	平日	9回 × 23日 = 207回		3.7人
		土日祝	8回 × 8日 = 64回		
9月	869	平日	9回 × 16日 = 144回		3.6人
		土日祝	8回 × 12日 = 96回		
計	13,220		回 × 362日 = 3,141回		4.2人

9/6、7停電により2日間全休

※平成30年度の目標 1日の乗車人数 39人

※平成30年度実績 日平均 輸送人員 13,220 ÷ 362 = 36人